

今、メコン河の本・支流でのダム建設計画がいよいよ勢いを増し、ダムが環境や生態系にもたらす被害はメコンに住む人々の食糧の安全保障を脅かさんとしています。

いったい誰がこうした破壊的なダム建設を進めているのでしょうか？例えばラオス政府は、ダムで発電した電気を近隣諸国に売ることによって経済を発展させようとしています。民間企業の参入も多いこれらのダム建設ですが、日本をはじめとした先進国の政府開発援助（ODA）もこれを支えています。日本政府を最大の出資者にいただくアジア開発銀行（ADB）が実施するダム計画の準備調査、建設資金の提供、送電線や変電所の建設はその典型的な例です。ところが、電力輸出で国庫が潤うと言われてきたラオスは、昨今の経済危機によって歳入が激減し、緊急援助すら必要な状況になっています。一方で、ダムによって生活を破壊され貧困化した人びとの問題は未解決のままです。

日本政府は今年2009年を「日メコン交流年」としていますが、私たちのメコン圏への関わり方がこのままでよいのか、今こそ問うてみるべきではないでしょうか？今回の講演会では、全世界のダム問題に取り組む米国のNGOインターナショナル・リバーズからメコン圏担当の職員をお招きし、メコン河ダム開発の現状と日本の関わりについて考える機会にしたいと思います。



<本セミナーは以下の会場でも開催されます>

■東京会場

【日時】2009年2月27日（金）18:30～20:30

【会場】総評会館 404号室 東京都千代田区神田駿河台 3-2-11

■名古屋会場

『だれのためのダム開発？メコン圏のエネルギー開発と愛知設楽ダム計画から見えるもの』

【日時】2009年2月28日（土）13:30～16:30

【会場】名古屋 YWCA 105号室

■福岡会場

【日時】2009年3月2日（月）18:30～21:00

【会場】福岡市 NPO・ボランティア交流センターあすみん

【お問合せ】

（特活）メコン・ウォッチ（担当：木口・木村）

TEL: 03-3832-5034 FAX: 03-3832-5039

メールアドレス： event@mekongwatch.org <http://www.mekongwatch.org/>